



広報



市の花
つつじ



FUSSA

平成22年(2010年)

5月1日 No. 806

発行/福生市 編集/企画財政部秘書広報課
〒197-8501 福生市本町5
☎042-551-1511 (市役所代表)
毎月1日・15日発行

ホームページ <http://www.city.fussa.tokyo.jp/>

今号の主な記事

2面福生市消防団を紹介します 3面町会・自治会に加入しましょう 4面福生市5つの元気推進事業計画を策定しました
6面市制40周年記念事業「花いっぽい運動」のお知らせ 7面第29回白梅まつり 8面第19回ふっさ輝きフェスティバル

5月12日は 民生委員・児童委員 の日です

民生委員・児童委員は、地域の皆さんとの相談相手です

民生委員・児童委員名簿一覧(敬称略)

No	氏名	担当地域	No	氏名	担当地域	
1	細井 利志子	熊川団地	27	豊留 君子	原ヶ谷戸	
2	細谷 喜代子	南	28	田村 洋明	長沢	
3	石川 實	内出	29	小澤 恵美子	長沢	
4	山崎 初江	武蔵野	30	横田 昭子	永田	
5	松崎 孝子	福東	31	内田 紀久雄	加美第1	
6	小林 ひとみ	福東	32	井戸 稔男	加美第2	
7	石毛 和美	福東	33	鈴木 桂子	加美第2	
8	千島 定吉	玉川台・富士見台	34	田村 義夫	加美平二丁目	
9	佐々木 京子	福栄 熊川牛浜(青梅線東側)	35	内田 喜美代	本町第1・第2・第3	
10	田部井 真理子	鍋ヶ谷戸第1	36	板寺 正行	本町中央・本町第6	
11	小山 ヒロ子	鍋ヶ谷戸第1	37	山田 富美子	本町第7	
12	斎藤 久美子	鍋ヶ谷戸第2	38	山上 廣光	本町第7	
13	森田 芳伸	鍋ヶ谷戸第2	39	中西 優子	本町第8第1	
14	出澤 喜代子	熊川牛浜(青梅線西側)	40	吉野 あや子	本町第8第2	
15	國友 久夫	南田園一丁目	41	古海 節子	加美平住宅 本町第8第2	
16	藤原 勝	南田園二丁目	42	小林 昇	加美平住宅 本町第8第2	
17	桐ヶ谷 茂子	福生団地	43	上遠野 安子	武蔵野台一丁目	
18	那須 和美	南田園三丁目 北田園一丁目	44	青木 ふみ子	武蔵野台一丁目	
19	石川 裕子	牛浜第1	45	竹島 芳子	本町第8第1	
20	北山 梅子	牛浜第2	46	古山 正子	本町第8第1	
21	原島 永子	牛浜第2	47	酒井 敏子	東福生駅周辺	
22	松坂 直人	志茂第1・第2	主 森田 幸春		市域全体: 児童福祉関係事項 のみ	
23	長谷川 憲司	志茂第1・第2	主 猪俣 淳子			
24	森田 雅樹	志茂第1・北田園	主 厚谷 まゆみ			
25	乗越 薫	原ヶ谷戸	主 前里 恵			
26	杉 京子	原ヶ谷戸	※[主]は主任児童委員です。			

民生委員・児童委員は、だれもが安心して暮らせるように、地域の相談役として厚生労働大臣から委嘱され福祉活動をする委員です。また、地域の皆さんと行政とのパイプ役を務めます。

市内には現在、4名の主任児童委員を含む51名の民生委員・児童委員がいます。

こんなとき、民生委員・児童委員にご相談ください



広報ふっさにS Pコードを導入しました!

目の不自由な方の情報ツールとして開発された「S Pコード」を、広報ふっさの紙面に掲載しています。S Pコードは専用の読み装置を使うことで、コードに記録されている文字情報を音声で聞くことができます。

毎月1日号の奇数面の記事をそれぞれ抜粋してコード化し、触って位置がわかるように半円状の切り込みを入れています。

問合せ秘書広報課広報広聴係☎551-1568

問合せ社会福祉課庶務・福祉計画担当☎551-1735

福生市民生委員・児童委員協議会ホームページ <http://fvac.group-info.com/minji/>
(ふっさボランティア・市民活動センターホームページ内)

たしました。
と感を強くい
て、一つ一つの
ことに臨まねば
改めて、お茶会を見ながら、
千利休の理念に想いを馳せて、
この一瞬が唯一無二の一瞬で
あるからこそ、緊張感と感謝の
気持ちを持つ
ました。

感謝の気持ちを持つことはあ
りませんでした。けれども年を
重ねるに従って、日々自分の老
いを実感し、親や近親者、友人
との死別を経験していくうち
に、当たり前の毎日を送れるこ
とが奇跡に近いことであり、
徐々にそれ 자체に感謝の気持
ちを感じるようになってきま
した。

お茶を語る時、必ず引き合いに出されるのは「二期一会」の観念です。若い頃は、太陽が昇り日が沈むという単純な繰り返しの毎日が、当たり前のことであり、退屈こそすれ、とても感謝の気持ちを持つことはありませんでした。けれども年を重ねるに従って、日々自分の老いを実感し、親や近親者、友人の死別を経験していくうちに、当たり前の毎日を送れることが奇跡に近いことであり、徐々にそれ 자체に感謝の気持ちを感じるようになってきました。

全力敬球

一期一会
福生市長 加藤育男



福祉バス出発式にて